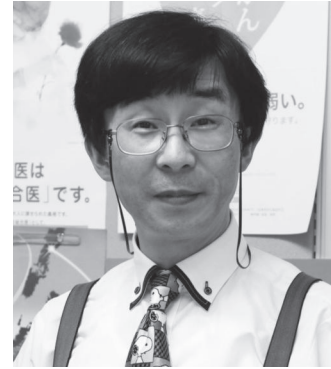


# 小児の COVID-19 感染と その対策

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学分野 教授

森内浩幸 先生



## 小児における COVID-19 感染の動向

—COVID-19 患者においては小児の占める割合が低い現状です。その理由について教えてください。

COVID-19 の世界的な感染拡大が続くなか、小児における感染者数は成人に比べ少ないことが知られています。

小児で COVID-19 の感染者が少ないとされる理由としては、2つ考えられます。1つは、生物学的な理由として、小児では SARS-CoV-2 受容体となるアンジオテンシン変換酵素 (ACE) 2 の発現レベルが低いこと<sup>1)</sup>、2つ目は、社会的な理由として小児の行動範囲が成人に比べ限定的であり、保育所や学校の往復のなかでは感染の機会が少ないことが挙げられます。現に小児の感染の多くは家族内感染であり、親御さんが社会から家庭のなかに持ち込むことで感染するケースが中心です<sup>2)</sup>。

厚生労働省の発表によると、2020年の春、20歳未満感染者数は全体の2%程度に過ぎず、年齢別人口分布で補正しても非常に少ない状況でした。その後、新規感染者数の割合がじわじわと増えて、2021年に入って10%を超え、今では20%超まで上昇しています(図1)<sup>3)</sup>。これは感染・伝播のしやすさを変化させる可能性のある変異ウイルスの影響というよりは、やはり国内での新規感染者数の増加に伴い、小児においても社会のなかで感染の機会が増えたことを反映していると考えられます。

## 小児 COVID-19 の臨床的特徴について

—小児 COVID-19 では、臨床症状からほかの呼吸器感染症と鑑別することは可能でしょうか。

成人 COVID-19 では、まれにウイルス性上気道炎などでもみられる嗅覚・味覚障害が特異的症状とされていますが、小児の場合、年長児はともかく、小さな子どもが自分から異常を訴えることはできません。

臨床では、「元気そうに見えて食欲がない」「前と食べ物の好みが変わっている」ことを嗅覚・味覚障害のサインとして聞き取りをしていますが、該当する子どもは減多にいません。そのため、小児 COVID-19 では、嗅覚・味覚障害は成人例ほど起きていないと推測されます。

加えて小児 COVID-19 の多くは、接触者の調査から見つかることがあっても、多くは無症状から軽症で経過しています。すると、どのような小児で COVID-19 を疑い、検査につなげるかですが、特異的症状がなく、無症状・軽症例が多いとなると、臨床症状から疑うことはきわめて困難です。

むしろ診断に有益なのは疫学情報です。それぞれの地域における COVID-19 流行状況を把握し、問診から家庭内や保育所、学校等、周囲に感染者や感染が疑われる人がいたかどうかを把握することが、より有用な手がかりとなると考えられます。